

人の子

アシェル・イントレータ

2014年5月2日



特にルカの福音書で、イエシュア（イエスさま）はよく自分自身のことを「人の子」と言っておられます。ヘブライ語で人は、アダム（最初の人であるアダム）で、アラム語ではエナッシュ（最初に出てくるエノシュ）（創世記 4:26）ですが、「人の子」には以下の5つの霊的な意味が含まれています。

1. **アダムの人間**— イエシュアは 2000 年前にこの世に、本当に生まれ、人間の肉体とその性質を備えていた。 (ルカ 3:38).
2. **アダムに与えられていた地上を収める権威**— イエシュアが行なった奇跡は、アダムが創造された時に神さまにより与えられていたところの、すべての自然界のものに対する幅広い権威を応用したものでした (創世記 1:26、マタイ 9:6).
3. **第2段階の人間**— イエシュアは、神さまが人間に計画しておられる「第2段階人間の」最初の人となったのです。その意味で彼はアダムと同じ役割がありました (ローマ 5:14)、前段階の終わりを表し、聖霊に満たされ、復活したアダム（人間）たちの新しい段階を表しています。(第1コリント 15:47).
4. **永遠の王**— 古代からのダニエル 7:13 に記されている、神性を備えたメシアが永遠の王国を受け継ぐという預言には、メシアは「バル・エナッシュ＝アラム語で人の子」と呼ばれており、イエシュアがこの用語を使用したのは、そのイメージを表すためだったのです。
5. **栄光の御座**— 神の御座に座り、栄光と火とケルビムの上の方に「人間の姿にしたもの」と描写された方がおられた(エゼキエル 1:26)。この用語を用いることで、イエシュアは神の権威を完全に表して、御座に座っておられるのです。

「人の子」という用語は、人間から神の幅広い領域にわたる、メシアの不思議について表現して

いるのです。

ハレディーム (パート2)

アリエール・ブルメンソール



先月私たちは、超正統派ユダヤ教徒(ハレディーム)たちによる、兵役やその他の一般的な社会機構に組み込むための政府の計画に反対して行なわれた大規模なデモについて記しました。イスラエル社会のこれほど大きな割合のグループが、イスラエル国家に対して頑強な態度を取ることができるのか、多くのクリスチャン、特にイスラエルを愛し、そのために祈っている方にとって、理解することが難しいと思います。より良く理解し正確に祈っていただくため、この事について何回かに分けてお話ししたいと思います。

歴史的なトラウマ

事の始まりは約 2000 年前、ローマ帝国の支配に対し 2 回の反乱が起こった時代に遡ります。1 回目は AD68~70 年、第 2 神殿の崩壊に終わったもので、2 回目は 133~136 年のバルコクバの乱といわれるものです。両方とも緒戦はユダヤ人が勝利したものの、圧倒的なローマ軍に惨敗を期しました。歴史家によると、第 2 回目の反乱の大虐殺はより凄惨なもので、百万人近くのユダヤ人が殺され、残りは奴隷として連行されたといえます。その時 (AD136 年) からユダヤ人はその土地に留まる事が禁じられ、イスラエルやユダの地という呼称は、ローマ人によりパレスチナと変えられたのです。

では先月エルサレムで行なわれたデモと何の関係があるのでしょうか。2 回の反乱、特に 2 回目の方は、当時のラビたちによって是認され、後押しされたものだったのです。事実ラビのユダヤ教の中でも高名なラビの 1 人であったラビ・アキバが主導して、カリスマ的戦士であったシモン・バルコクバを、メシアとして、また 2 回目の反乱の指導者として油を注いだのです。問題点が見えてきたでしょうか。AD133~136 年のローマによるユダヤ人ホロコーストの原因を作ったのは、現代の正統派ユダヤ教の始祖たちに他ならないという事です。

このトラウマの結果、それに続いたラビたちは、タルムードにおいて誓わせました「ユダヤ人は外国による支配に対し決して反抗を起こさず、現代のイスラエルとメシアの時代のイスラエルを隔てている『壁』を損なわない。」言い換えると、メシアが来て、明白な神の力によって、約束の地にメシア的イスラエルが構築されるまでは、ユダヤ人は宗教的に、自分たちの手で問題解決を図る事が禁止されているのです。この事によって、近代のシオニストのイスラエル復興運動は、宗教的ユダヤ人よりも、主に世俗的で人道的ユダヤ人によって進められたのです。(多くの宗教的

ユダヤ人は、その信者たちとヨーロッパに残り、アウシュビッツのガス室で死んでいきました。) またそのことにより、今日まで、ハレディー・ユダヤ教徒たちは、現代の民主的イスラエル国家においてさえも、兵役について受入れる事ができず、同時にそのことは、聖書預言者たちによって語られたメシアによるイスラエル国家を、全く成就していないのです。

すべての宗教的ユダヤ人は、メシアが来られ、その地上的な王権はエルサレムから治める事を信じています (少なくとも日に2回そのように祈るのです)。問題は「もし」ではなく「いつ」であり、さらには「どのように」なのです。2000年前のラビ・アキヴァ他による当時の、悲惨な預言的「誤解」によって、いまだに宗教的ユダヤ教徒の大部分は、聖書の偉大な不思議の一つに対し盲目であり、メシアの来臨は、現実にかかる、特定の歴史的出来事が前座として起こるかということが、わかっていないのです。この事については次回に譲ります。

関係を築いていくための人たちを選ぶ



私たちにとって、他人に投資するためには、時間が限られています。では関係を築いていく相手をどのように選んでいけば良いのでしょうか。このメッセージでは、アシェルは、マルコ 6:12 からイエシュアがどのようにして弟子たちを選び、私たちはここから何を学べるのかをお話ししています。[英語でのビデオはこちらをクリック](#)。